

日本薬物動態学会 委員会と活動報告 (06/11/24)  
( は の下部委員会)

< 常設委員会 >

総務委員会活動報告書

委員長 : 寺崎哲也 (東北大学大学院)  
副委員長 : 高野幹久 (広島大学大学院)  
委員 : 細谷健一 (富山大学大学院) 湯浅博昭 (名古屋市立大学大学院) 荻原琢男 (高崎健康福祉大学)



寺崎 哲也



高野 幹久



細谷 健一



湯浅 博昭



荻原 琢男

本年1月から、e-mail と電話会議を中心に、上記のメンバーで次のような活動を行ってきました。

1. 会費滞納会員の除籍に関するルールを作成し、関連する細則の改定を行い「正会員及び学生会員の資格喪失に関する内規」を新設しました。
2. 会員の休会制度ならびに海外在住届制度の導入に関するルールを作成し、本年開催される総会と評議委員会に於いて、関連する会則を改定する準備を行うとともに、「正会員及び学生会員の休会及び海外在住届に関する細則」の改定の準備を行いました。
3. 日本学術会議「科学者の行動規範」等に対する調査に協力しました。
4. 平成18年度新評議員候補者と名誉会員候補者を理事会に推薦しました。

引き続き、各種制度の見直しや整備を行うと共に、学術団体としてのあるべき姿等について意見交換し、理事会へ提言していきたいと考えております。会員の皆様から、ご意見ご要望をお寄せいただきますよう心からお待ちいたしております。

会員増を考える委員会活動報告

委員長 : 横井 毅 (金沢大学大学院)  
副委員長 : 乾 賢一 (京都大学医学部附属病院)  
委員 : 寺崎哲也 (東北大学大学院) 大塚峯三 (JSSX 事務局長)



横井 毅



乾 賢一



寺崎哲也



大塚峯三

1. 本年9月30日、10月1日に開催された日本医療薬学会年会の際に、動態学会の第21年

会のチラシ（全演題名入り）を1,500部配布した。

2. 新規の賛助会員および、増額依頼対象賛助会員を慎重に選択し依頼文を発送した。
3. 会員増に資する情報を集めるために、アンケートの実施準備を行っている。

#### ビジョン委員会

委員長：鈴木洋史（東京大学医学部附属病院）

副委員長：玉井郁巳（東京理科大学）

委員：諏訪俊男（共立薬科大学）、今井康彦（アステラス製薬（株））  
細川正清（千葉科学大学）



鈴木洋史



玉井郁巳



諏訪俊男



今井康彦

細川正清

本委員会は薬物動態学会の活動のビジョンを提言し、また若手研究者の育成を図ることを目的として設立された。現在まで、国際対応委員会、DMPK国際化委員会とも密接に連携をとりながら特に国際化に向けての提言、また年会におけるシンポジウムの位置づけなどの提言を行っている。

一方で、次の時代の研究の方向性を議論する場として、来年度にビジョンシンポジウムの開催を予定し、共立薬科大学・崔吉道先生を委員長、京都大学医学部附属病院・増田智先生を副委員長とした委員会を設立した。また、ブログを開設し、例えば国際学会にての最新情報、関連領域学会の講演会・シンポジウムの案内や内容紹介などの情報交換の場とすることを予定している。

#### 財務委員会

委員長：小林 智（永井記念薬学国際交流財団）

副委員長：岩崎一秀（ファイザー（株））

委員：成松鎮雄（岡山大学大学院）



小林 智



岩崎一秀



成松鎮雄

1. 決算報告書案の検証、修正提言
2. 一般会計の予算案立案、月次推移の把握・方向付け
3. 監査への対応
4. WS 収支決算報告、予算案への提言

## 5. 個人会員会費未納者の確認と会費徴収方法への提言

### 国際対応委員会

委員長：玉井郁巳（東京理科大学）

副委員長：川合良成（ノバルティスファーマ）

委員：家入一郎（九州大学大学院） 吉道（共立薬科大学）



玉井郁巳

川合良成

家入一郎

崔 吉道

日本薬物動態学会 JSSX の国際化を目指す委員会です。現在はまず、Asia-Pacific 地域の ISSX 学会研究者間の交流の促進を考えています。具体的には、(1) 年会時における Asia-Pacific 地域研究者とジョイントシンポジウムの開催、(2) ISSX Asia-Pacific Regional Meeting への積極的協力、(3) ISSX 学会とのジョイントシンポジウムの相互開催を考えています。JSSX 学会の研究成果を、年会と学会誌による英語での世界への発信によって、諸外国からの研究者が集う国際的学会への変貌を目指します。

### ISSX 支援委員会

委員長：辻 彰（金沢大学大学院）



#### 【役割・使命】

- ・ ISSX との親密な情報交換
- ・ ISSX への対応支援
- ・ Asia Pacific regional award 候補者選考への支援

### 編集委員会活動報告

委員長：千葉 寛（千葉大学大学院）

委員：池田敏彦（三共）、小澤正吾（国立医薬食品衛生研究所）、川合良成（ノバルティスファーマ）、澤田康文（東京大学大学院）、須藤賢一（第一製薬）、高野幹久（広島大学大学院）、山崎浩史（昭和薬科大学）、山田英之（九州大学大学院）、湯浅博昭（名古屋市立大学大学院）

・編集委員長



千葉 寛  
編集委員



池田敏彦



小澤正吾



川合良成



澤田康文

(平成 18 年度まで)



須藤賢一



高野幹久



中島恵美



山崎浩史



山田英之



湯浅博昭

(平成 19 年度から)

主要な活動方針は、DMPK を国際的に認知された薬物動態領域の専門誌とすることです。そのため、本年度は林編集長時代から継続して取り組んできた電子投稿査読システムを軌道に乗せ、DMPK 関連の新設三賞受賞論文の選定を行い、impact factor の取得も目前までできました。今後の取り組みとして、投稿が期待できる Asia Pacific 地域から可能な限り Associate Editor を迎え入れる予定です。そのため、DMPK 国際化委員会と協力して海外から招致する編集委員の人選を進めています。

**NL 編集委員会**

委員長 : 山崎浩史 (昭和薬科大学)

委員 : 小澤正吾 (国立医薬食品衛生研究所)、加藤基浩 (中外製薬)  
三浦慎一 (三共)



ニュースレター第2代編集委員の小澤省吾（国立衛研）加藤基浩（中外製薬）三浦慎一（三共）および山崎浩史（昭和薬大、委員長）は、初代委員会の方針を引き継ぎながら、さらにきめ細かく読者のニーズに応える企画を推進していくことを活動方針と定めております。具体的には、「展望」、「レクチャーノート」、「著者からのメッセージ」や「学会参加体験記」を継続する一方、新企画として「実験方法シリーズ」、「アドメサークル：日本の薬物動態研究者」をNLに連載しております。21巻6号からは「アクティビティレポート」を設け、各種委員会の熱気ある活動の一端のご紹介を始めます。今後ともニュースレターを介して会員の皆様とニュースレター編集委員会、学会事務局あるいは学会理事会と、双方向の意見交換をはかりたいと存じます。

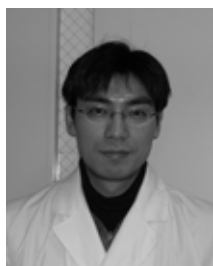
#### DMPK電子投稿WG電子投稿委員会活動報告書

委員長： 小澤正吾（国立医薬食品衛生研究所）

委員： 伊藤晃成（東京大学医学部附属病院）、崔 吉道（共立薬科大学）、山崎浩史（昭和薬科大学）



小澤正吾



伊藤晃成



崔 吉道



山崎浩史

平成18年4月1日より、DMPK誌の電子投稿システムは供用開始となり、編集委員向けの操作マニュアルの整備など、スムーズな査読システムの確保に努めている。

DMPKのImpact Factor (IF)取得を目指す。DMPK誌の安定した編集・発行体制をThomson ISI社に示すため、発行と同時に毎号を同社に継続的に送付している。データベースへのDMPKの収載、すなわちIF取得完了まで継続する。

#### DMPK ベストアクセス賞を考える会

委員長： 小田切優樹（熊本大学大学院）

委員： 寺崎哲也（東北大学大学院）、千葉 寛（千葉大学大学院）



小田切 優樹



寺崎 哲也



千葉 寛

学会 HP および J-stage 上のダウンロード件数から、年ごとに最多件数の学術論文、総説それぞれ 1 件を選定し顕彰する。

選定された論文の著者すべてに盾を贈呈する。

選考については DMPK 編集委員会が選考委員会を設け選考し、決定結果を DMPK 誌と HP

に上位 3 件まで掲載する。

#### DMPK 国際化委員会

川合良成（委員長；ノバルティスファーマ）

千葉雅人（副委員長；萬有製薬）

加藤将夫（金沢大学） 玉井郁巳（国際対応委員会委員長[兼任]；東京理科大学）

永田清（東北薬科大学） 橋本征也（富山大学） 細川正清（千葉科学大学）



日本薬物動態学会の更なる国際化の一環として、学会誌である Drug Metabolism and Pharmacokinetics (DMPK) 誌の国際化促進を目指して活動。対応中の主な項目として、1) Editorial Board 全体の 1/3 ~ 1/2 を主として海外研究者(主として Asia - Pacific)とする、2) 日本が世界をリードできる研究分野を再確認し、DMPK 誌の International Journal としての位置づけを明確化、3) 戦略的な Review Article 掲載により国際誌としての注目度を向上させる、などがある。また今後も、4) impact factor や original paper の継続的レベルアップを目指し、学会員が愛着を持てる学会誌となるべく工夫・対応を検討し、関連委員会や理事会に提案していく予定。

#### < 新設および準常設委員会 >

##### 広報委員会活動報告書

委員長 : 乾 賢一（京都大学医学部附属病院）

委員 : 齋藤秀之（熊本大学医学部附属病院） 成松鎮雄（岡山大学）  
須藤賢一（第一製薬）



乾 賢一



齋藤秀之



成松鎮雄



須藤賢一

広報委員会は、本学会活動の国内外に対する情報発信・共有を目的とし、次のような検討を進めている。

1. 登録会員向けのメールによる情報発信システムを活用する。
2. 薬物動態学会の社会的役割・貢献について、会長等による HP 上でのメッセージ提示を予定している。

3. また大学、製薬企業、病院等の現会員から原稿を募り、創薬、医薬品適正使用、治験、薬学教育などのテーマを中心とした「一般向け情報」のHP掲載を計画している。
4. 2008年度年会（熊本）における市民公開セミナーの企画立案を進める。

#### HP改革委員会

- 委員長：成松鎮雄（岡山大学大学院）  
委員：内藤真策（大塚製薬工場） 石井祐次（九州大学大学院）  
大河原賢一（岡山大学大学院） 設楽悦久（千葉大学大学院）



成松鎮雄



内藤真策



石井祐次



大河原賢一



設楽悦久

学会の広報活動の重要な手段としての Home Page の役割と機能をさらに向上させるため、広報委員会の下部組織である HP 改革委員会では、「Home Page の全面改革」を目標に種々協議を行い、「HP 改革委員会からの提言（その1）」を理事会に提出した。

その提言を踏まえて、事務方では追加予算を必要としない範囲で Top Page の手直しをして、この半年で次ページのように変貌している。今後は Top Page のデザイン変更、機能ボタンの配置や「ニュースレター」、「会員のページ」等の内容（コンテンツ）の整理と見直しを進めると共に、広報委員会と共同して「一般の方々に対するアピールの方策」等を検討し、来年の3月頃を目処に改革案をまとめ、次年度に全面改訂の予定である。

なお、Top Page のスペースに薬物動態学会の HP に相応しい絵・写真を配置するに当たって、その図案を会員から公募することとなった。応募要領の詳細は HP に記載する。Top Page のデザインも今後変更する予定である。

#### 教育委員会

- 委員長：横井 毅（金沢大学大学院）



#### ショートコース委員会

- 委員長：岩崎一秀（ファイザー）  
副委員長：横井 毅（金沢大学大学院）  
委員：池田敏彦（三共） 山下伸二（摂南大学）



岩崎一秀



池田敏彦



山下伸二

本委員会は教育委員会の下部委員会として以下の使命および役割を担う。

**使命**

- ・医薬品の効率的な開発に必要なテクノロジーの普及を図る。すなわち、薬物動態領域およびその関連領域において、医薬品の開発に有用なテクノロジーを普及する。

**役割**

- ・ニーズの把握  
医薬品の効率的な開発において、導入したいテクノロジーの有無を調査して、必要ならば普及を図る。
- ・テクノロジーの普及  
導入の必要なテクノロジーをショートコース等適切な手段により普及する。

**若手研究者活性化委員会**

委員長：池田敏彦（三共（株））

委員：岩野俊介（北海道大学大学院）、榎園淳一（協和発酵（株））、  
小林好真（第一製薬（株））、上家潤一（東北大学）、  
高田龍平（東京大学医学部附属病院）、加藤美紀（金沢大学）

H18 年度 co-chair：前田和哉（東京大学大学院）、小林カオル（千葉大学大学院）



池田敏彦



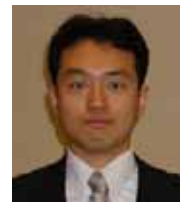
岩野俊介



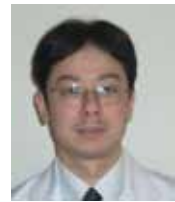
榎園淳一



上家潤一



小林好真



高田龍平



加藤美紀



前田和哉



小林カオル

**【役割・使命】**

- ・フォーラムと平行開催を企図した若手研究者主催のシンポジウムの若手研究者活性化委員会の立上げと若手シンポジウムの開催。



### ベストポスター賞選考方法の検討委員会

委員長：池田敏彦（三共）

委員：横井 毅（金沢大学大学院）、北田光一（千葉大学医学部附属病院）、  
杉山雄一（東京大学大学院）、辻 彰（金沢大学大学院）、  
大塚峯三（JSSX 事務局長）



池田敏彦



横井 毅



北田光一



杉山雄一



辻 彰



大塚峯三

#### 【役割・使命】

- ・ 21 回年会から採用を目処としてルール化とルールのニューズレターへの投稿。

### <会長特命委員会>

#### 運営委員会

委員長：杉山雄一（東京大学大学院）

委員：鎌滝哲也（高崎健康福祉大学）、辻 彰（金沢大学大学院）、  
池田敏彦（三共）、寺崎哲也（東北大学大学院）、  
大塚峯三（JSSX 事務局長）



杉山雄一



鎌滝哲也



辻 彰



池田敏彦



寺崎哲也



大塚峯三

#### 【役割・使命】

- ・ 動態学会の全般的なことについての諮問委員会

### 薬物動態試験推進委員会

委員長：池田敏彦（三共）

委員：千葉 寛（千葉大学大学院）、小林 智（寿製薬）



池田敏彦



千葉 寛



小林 智

#### 【役割・使命】

- ・ 有限責任中間法人医薬品開発支援機構、他学会、規制当局などへの対応
- ・ ガイダンス「薬物相互作用の検討方法について」の改定への対応

### フォーラム委員会

委員長：山下伸二（摂南大学）

副委員長：小田切優樹（熊本大学大学院）

委員：池田敏彦（三共） 横井 毅（金沢大学大学院）

大野泰雄（国立医薬品衛生研究所）



山下伸二



小田切優樹



池田敏彦



横井 毅



大野泰雄

委員会の使命：薬物動態学会年会時のフォーラムの企画立案、フォーラムの開催

本年度の活動内容：第 21 回薬物動態学会年会時に、「薬物動態研究と毒性研究の連携はいかになされるべきか～ヒト代謝物試験を中心として」というテーマでフォーラムを開催する。本フォーラムでは、産・官・学から計 6 名の演者の先生に講演をお願いし、2005 年に FDA より提出されたヒト代謝物試験に関するドラフトガイダンスの内容、日本の対応を中心として、産・官・学共通のディスカッションの場を提供する。

### 学会賞選考委員会

委員長：山添 康（東北大学大学院）



- ・ 平成 18 年度の学会賞各賞の選考
- ・ 必要に応じ学会賞等選考規定改正への提言：学会賞等推薦募集要領を一部改定（詳細は第 21 回評議員会・総会で報告）

## WS 世話人会

委員長 : 岩崎一秀 (ファイザー)

委員 : 須藤賢一 (第一製薬) 馬場隆彦 (塩野義製薬)  
杉山雄一 (東京大学大学院)

顧問 : 池田敏彦 (三共) 小林 智 (寿製薬)



岩崎一秀



須藤賢一



馬場隆彦



杉山雄一



池田敏彦



小林 智

## 【役割・使命】

- ・ WS テーマ、ビジョンの企画立案
- ・ WS の開催